

2015年度地球環境委員会見学会(6月5-6日)

地球環境委員会(委員長:角田裕一 住友商事(株)環境・CSR部長)は、委員各社の環境担当者の環境教育に資することを目的とした見学会を毎年実施している。2015年度は、企業による環境への取り組みの歴史を学ぶことを目的として別子銅山記念館、広瀬歴史記念館、別子銅山を訪問した。当日は、委員会社の環境部門担当者等13人が参加した。

別子銅山記念館は、別子銅山の意義を永く後世に伝えるため、住友グループによって開館された施設であり、開坑以来の歴史、地質鉱床、生活風俗、技術に関する資料を見学することができる。同施設では、参加者が実際に銅鉱石に触れたり、「棹銅(さおどう)」という棒状に精製された精銅を間近に見たりすることができた。館長より、精錬所から排出された亜硫酸ガスの農作物への影響や煙害問題を解決するために製錬所を移転した四阪島での困難、年間100万本を超える植樹を行った当時の経営者の方針と社会状況などにつき解説を受けた。

広瀬歴史記念館は、別子銅山の経営を支え、日本の近代産業を育成した広瀬幸平(さいへい)の足跡をたどることのできる施設であり、展示館と明治時代に建築された旧広瀬邸から構成されている。同施設では、実際に邸宅を内覧し、館長より広瀬氏の功績について、当時の別子銅山や新居浜市の様子等を交えなが



別子銅山

ら解説を受けた。

愛媛県新居浜市の山麓部に位置する別子銅山は、住友家により1691年(元禄4年)に開坑された後、約280年間にわたり操業された。日本の近代化に寄与する一方、その過程で発生した煙害問題の解決に向けてさまざまな取り組み(亜硫酸ガスの脱硫と中和技術の開発、多い時で年間200万本以上の植林など)がなされた場所である。見学会では、当時の別子銅山の状況をよく知る登山ガイドを先頭に、麓付近に見られる当時の事務所をはじめ、学校、社宅、病院などの跡を見ながら、山の町といわれるほど盛況を誇った様子や森林の状況について解説を受けた。その後、製錬所跡や「東延斜坑」と呼ばれる外国人鉱山技師の調査結果に基づいて開削した坑道跡、「歓喜口」と呼ばれる銅山として最初に開削した坑口跡を見学した。最後に、山頂からは、緑豊かな自然がよみがえった別子銅山の景色を一望することができた。

JF
TC



広瀬記念館